

待望のクリスマスも、あと4日に迫りました。私たちはクリスマス前の四週間に降臨節と定めまして、その準備の時を過ごしてまいりましたが、本日はこの世に来られた救い主について学びます。

本日の福音書は神の使いガブリエルが主イエスの受胎を告知しにマリヤのところに現われた箇所が選ばれております。これこそ主なる神の救いのみ業が始められた宣言の言葉でありました。主なる神はマリヤを通して救い主をこの世に生まれさせようとされたのでした。マリヤはその器として選ばれたのでした。

マリヤの上に与えられた主なる神のよりの使命、それは私たちには想像もつかないくらい困難なことでした。当時マリヤはわずか14歳、結婚前に身重になるというのは死に値する罪と考えられておりました。この主なる神からの使命を人々に理解してもらうことは困難でした。しかしマリヤは言いました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」。マリヤはこのように、自分の命をかけて主なる神からの使命を負ったのです。

主イエスの誕生は、このようなこの世的には理解されることのない、命がけの誕生であったわけです。主イエスをこの世に来たらしめたのは、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」。マリヤのこの信仰によったのでありました。

主イエスは、何故このような人々の間でも許されることのない、危険な状態の中でお生まれになったのでしょうか。主なる神はこのようなことではなく、主イエスをこの世に登場させることがお出来になったはずです。しかし私たちはここに主なる神の御心を知ることが出来ます。

主イエスは、この世で最も蔑まれていて、人々の間で差別されたり非難されたり、苦しんでいる人、罪のゆえに主なる神から遠く離れている人、そういう人達に解放を告げ、自由をもたらせるためにこの世に来られたのです。もし主イエスが王宮にお生まれになり、贅沢な暮らししか知らない家庭にお生まれになったのだとしたら、このよう人々に解放を告げることは出来なかったでしょう。苦しんでいる人々の心を本当に知り、本当の友となられるために、主イエスはこうして誕生されたのです。主イエスは決して裕福な家庭にお生まれになったのではありませんでした。特別な名前を付けられたのでもありませんで

した。ガブリエルが命じたイエスという名前は当時最もよく用いられた名前でした。いちばんありふれた名前だったのです。ルカはこのように書きながら、主イエスは高い方であられながら最も低く、最もふさわしくない形でお出でになられ、私たち人間のすべてを知り、愛されることを私たちに伝えているのです。ここにも主イエスの使命が現われております。主イエスは、私たちを救うため、罪のうちに入り、悪いことをしながらしか生きて行けない私たちに、解放を告げ、天国の道をお示しになるために私たちのところに来られました。その誕生は親も子も、危険に満ちたものでした。現に主イエスは誕生後すぐに命を狙われることとなります。そして十字架上で死を遂げられるまで、一生危険なご生涯でありました。それはまさに私たちの救い主となられるためであり、この世でもっとも低くされている人の本当の友となられるためだったのです。このような存在が私たちのもとに与えられた、この喜びの時をご一緒に迎えましょう。

全能の神よ、み子の訪れによってわたしたちを清め、心の闇を照らしてください。主が来られるとき、主にふさわしいみ住まいを、常にわたしたちのうちに備えることができますように、父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン